

# [シラス]

## 1. 経年経過及び平成15年1～2月期の漁況の経過

### 【西薩海域，志布志湾海域】

バッチ網漁業の漁獲量は，西薩海域では平成11年の6,060トン进行ピークに減少傾向を示しており，平成13年は2,696トン，平成14年は1,106トンでした。志布志湾海域では平成12年の1,407トン进行ピークに減少傾向を示しており，平成13年は736トン，平成14年は396トンでした。

今期は西薩海域ではまとまった水揚げはありませんでした。志布志湾海域では，カタクチシラス主体で18トンの水揚げで，前年の63%及び平年の52%でした。

## 2. 平成15年4～6月期の見とおし

漁獲の主体は，カタクチシラスでしょう。来遊量は，西薩海域は，前年を上回り，平年を下回るでしょう。志布志湾海域は，前年・平年を上回るでしょう。

(根拠)

主対象のカタクチシラスは，親魚の来遊が前年同期と比べ好調であり，また卵稚仔調査結果でも卵や稚仔魚の発生状況も前年に比べ増加しています。特に太平洋側では，親魚の来遊状況や卵・稚仔魚の発生状況ともに高水準であるため，志布志湾海域では好調に推移するものと考えられます。ただし志布志湾海域は，黒潮の影響が強いため，黒潮の流路等の海況の変化により，今後の漁況が左右される可能性があります。

なお，マイワシシラスは，親魚資源が全国的に低水準であり，資源回復の兆候がみられないことから，まとまった来遊は期待できないと考えられます。

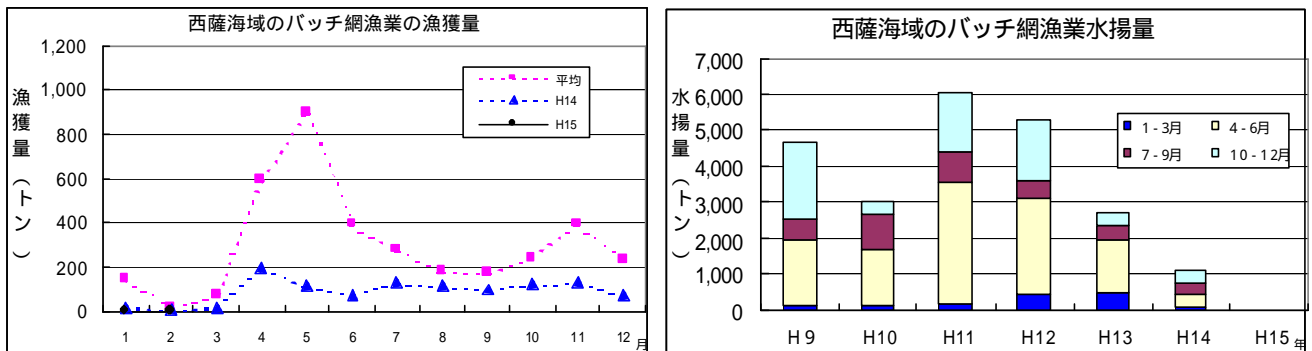


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(5漁協計)

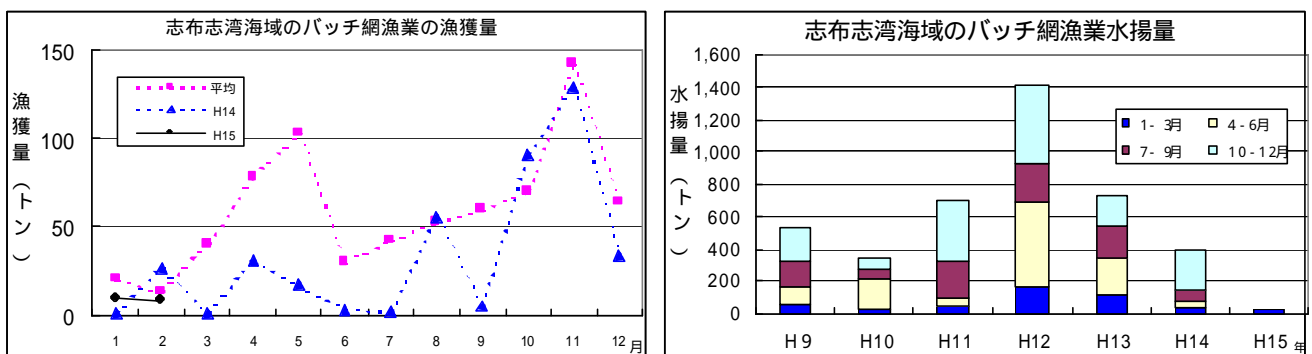


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2漁協計)

平年値は過去5年(平成10～14年)の平均値，平成15年2月までの水揚量を使用。